

都の代替措置では 空白は埋まらない

東京都は、地域の小児医療を支えている都立清瀬小児病院と八王子小児病院、全国に2カ所しかない子どもの心の専門病院である都立梅ヶ丘病院を、この3月に廃止し、府中に開設する小児総合医療センターに統合しようとしています。日本共産党は、この問題を、都政をめぐる最大の焦点のひとつとし

てとりあげ、3小児病院の存続をもとめました。

質疑をおして、3小児病院廃止は、地域の小児救急や、NICU(新生児集中治療室)の大きな空白をつくること、都がしめしている代替措置では、この空白を埋めることはできないことが、はっきりしました。

存続は可能

都は医師不足などを理

由に、3小児病院存続は「ないものねだり」と言いましたが、日本共産党は、都の人材確保計画では、3小児病院を存続させても、小児総合医療センターに医師約五十人、看護師約百人を配置できることをしめし、同センターを段階的に開設すれば、3小児病院は存続できることを明らかにしました。

すでに3小児病院では外来診療の打ち切りや病



病院存続をもとめるパレードを激励する日本共産党都議団 12月8日東京都庁前

都立3小児病院 存続もとめ論戦

小児医療に大穴

子どもの命、守りなさい

棟閉鎖が始まっており、患者が行き場のないまま放り出される深刻な事態がうまれています。

民主の廃止容認は重大

ところが都議会第一党の民主党は、都議選で都立病院などの存続を公約したにもかかわらず、突然、廃止容認に態度を変えました。これは都民への背信行為です。また自民党、公明党は、「いまだに反対を唱える会派もあり」(自民)と言うなど、廃止推進の立場をあらためて表明しました。

第4回定例会開会日の本会議討論で、日本共産党の大山とも子議員は、都議会のすべての党と議員が事態を直視し、子どもの命を守るために、3小児病院存続の立場に転換するようよびかけました。

議会会期中も、都庁前の座り込み、パレード、2千人集会などが行われ、今年になっても、3小児病院の存続をもとめる声はますます広がっています。

日本共産党は2月24日に開会予定の第1回定例会にむけ引きつづき、3小児病院存続のために全力を尽くします。

活動トピックス

ACTION



12/21 暮らしの予算の充実へ 都に要望

日本共産党都議団は12月21日、2010年度予算編成にたいする要望書を石原都知事に手渡しました。

要望では、▽75歳以上の医療費無料化▽保育所増設の推進▽都立3小児病院の存続とNICU増設▽中小企業対策予算の増額▽少人数学級の本格実施▽外環道、新銀行東京、築地市場の豊洲移転など知事のトップダウン事業の見直しなど、都議選でかけつけたらと雇用を最優先にする政策の実現を求めています。



12/2 都営住宅問題で交渉

12月2日の都との交渉には、98人がつめかけ、担当者に要望を熱くうたえました。

12/4 五輪再立候補問うシール投票

12月4日に新宿西口で東京の五輪再立候補の是非を問うシール投票を行いました。2513人が投票し、賛成が926人(37%)、反対が1559人(62%)でした。



「1年近く仕事を探しているが、まだみつからない」——日本共産党都議団は11月24日、渋谷のハローワーク前で聞き取り調査にとりくみました。

57人の回答者から「失業給付期間6ヶ月はあつという間。条件の悪い仕事でも選ばざるを得ない。給付期間の延長が必要」(20代男性)、「正社員だったが突然クビを切られた。年齢制限で面接にすらこぎつけることができない」(30代男性)など切実な実態と要望が、次つぎよせられました。

11/24 ハローワーク前で調査

